

## 第 5 章

### 総合考察



本研究は、聴覚特別支援学校及び難聴特別支援学級等に在籍する軽度・中等度難聴児（者）に対して、コミュニケーション力や学力・言語力等の生活上、学習上の現状と課題を明らかにし、適切な指導、必要な支援の在り方及び保護者、関係者等への支援について検討することを目的とした。

第1章 軽度・中等度難聴児に対する教育的対応の今日的課題では、聴力レベルにより、難聴の区分（軽度、中等度、高度、聾）がなされているが、聴力レベルの設定は一律ではないことや各発達段階における軽度・中等度難聴児への指導上の課題について述べた。小寺（2000）が指摘するように、語音明瞭度を加味した聴力で分類するのが实际的であり、難聴児の生活の様子（自覚や困難性等）を踏まえて、教育的支援を検討する必要がある。

第3章では、聴覚特別支援学校、聴覚障害者情報提供施設、全国難聴言語障害学級及び通級による指導教室における実態調査の結果を報告した。

聴覚特別支援学校の調査では、軽度・中等度難聴児は、乳幼児教育相談で47%、幼稚園で29%、小学部で17%、中学部で18%、高等部で14%という結果であった。実際の指導において、軽度・中等度難聴児に特化した対応をしている学校が多いということは確認できなかった。

近年、地域によって差異があるが、聾学校全体で在籍数の減少化により、学級の少人数化現象が見られる。このことは集団保障の問題があるものの、個別の指導をよりきめ細かくできるという利点がある。今後は、これまで聾教育が培ってきた指導法を駆使し、軽度・中等度難聴児に対する教育的対応を学校体制（システム）として確立していくための検討が求められよう。

また、今回の調査では、聾学校における人工内耳装用児が1,000名以上に達していることが示された。このことは、新生児聴覚スクリーニング等の早期発見技術の進展や人工内耳装用後の成果等を背景として、今後の増加を予感させるものであった。現時点で、人工内耳装用児を一概に軽度・中等度難聴の枠に取り込む明確な根拠はないが、施術後の聴性反応や言語発達、障害認識等の側面からは、彼らに軽度・中等度難聴にも通じた課題があると捉え、具体的な教育的支援の在り方について検討すべき時期に来ていると考えられる。

次に、聴覚障害者情報提供施設ライブラリー及び地方ライブラリーの教育的利用に関する実態調査であるが、聴覚障害者情報提供施設（機関）においては、各機関の軽度・中等度難聴者（難聴者）の年間の平均利用者数は122名であった。学齢期の児童生徒の利用は平均51名と少なかった。渡邊氏が第4章第4節で述べているように、聴覚障害者情報提供施設において高い割合で展開されているライブラリー事業、相談事業、手話通訳派遣事業、要約筆記派遣事業、講座等の事業について、情報収集し、必要な支援を得ることが期待される。

本調査の自由記述からは、要約筆記や手話等の情報保障、難聴理解教育の推進等、教育機関への要望も挙げられた。本機関には、聴覚障害者が学校卒業後において利用すべき多くの情報がある。このため、教育機関はもとより行政も含めて、難聴者を支援するネットワーク作りが必要と考えられる。

全国難聴言語障害学級及び通級による指導教室における実態調査では、全体で1,384名の在籍を認めた。このうち、軽度・中等度難聴児（幼児、小学生、中学生）は763名であった。また、人工内耳（片耳・両耳）装用児は、161名であった。

難聴言語障害学級においては、67%が軽度・中等度難聴児及び人工内耳装用児であった。今回の調査では、指導の実際について詳細な情報を得ることができなかったが、彼らの指導の実際（担当者や指導形態、指導内容等）について、指導体制全体から捉える必要がある。

また、今回の調査では、課題として保護者支援の必要性が示唆された。このことは聾学校にも共通した課題として捉えることができ、今後の具体的な協働体制の構築が必要である。

第4章では、軽度・中等度難聴児・者への指導と支援について、兵庫県立こばと聴覚特別支援学校、千葉市立誉田東小学校きこえの教室、川崎市北部地域療育センター、神奈川県聴覚障害者福祉センターの4機関が各機関での実践を報告した。

兵庫県立こばと聴覚特別支援学校は、0歳から5歳児の早期教育を行っている。こばと校は聴覚障害のある幼児の教育に携わるにあたり、保護者に対する指導や支援を重点的に行っており、特に、在籍児の保護者への研修を年間通して、計画的に実施している。在籍児の40%近くが中等度難聴児であること、重度難聴児のほとんどが人工内耳を装用していることから、中等度難聴を視野に入れた研修内容を設定している。今後は、軽度・中等度難聴児をテーマとして取り上げての教育内容の設定や研究を進める中で、具体的な指導・支援の充実が期待される。

千葉市立誉田東小学校きこえの教室では、難聴児が普段生活している通常学級との連携を重視している。具体的には担当教員が直接、学級訪問を行い、校長をはじめ学級担任や養護教諭と協議する場を設ける等の調整を行っている。特に学級訪問においては、年に数回、難聴理解授業を実践し、通常学級の児童へ理解啓発を行っている。この活動の詳細については、第4章第2節に紹介しているので、参考にされたい。

また、他の県内難聴学級、聾学校との連携として、難聴学級や聾学校の子どもと直接交流する場を設け、ワークショップ、スポーツ、サマーキャンプ等の活動を行っている。このような活動を通して、子どもに自己肯定感や自信をつけることの重要性が報告された。

川崎市北部地域療育センターでは、診療所業務、相談・療育（外来）業務、通園療育業務の3業務が行われている。相談を受けている軽度・中等度難聴児には、他の診断名も併せ持っている難聴重複児童もおり、総合的な支援をしている。しかし、難聴の発見が遅れたり、難聴に気付かれていても補聴器の装用が遅れている児童もいる。このため、他機関同様、軽度・中等度難聴について啓発活動を努めて行っている。

このことから、軽度・中等度難聴に関しては、聴覚障害のみならず、障害についての幅広い知識を有しておくことが重要である。また、軽度・中等度難聴児には関係機関連携を強化し、幼児期からの継続した切れ間のない支援を行うことで成果が期待できることが示唆された。

神奈川県聴覚障害者福祉センターは、相談、各種検査、ビデオライブラリー、講座、手話通訳者・要約筆記者の養成、研修及び認定試験、手話通訳者・要約筆記者の派遣、

聴覚障害者福祉の普及啓発等を幅広く展開している。特に、相談事業として0歳から18歳までの乳幼児・学齢児の聴覚に関する相談を受けている。

聴覚障害乳幼児指導として、保護者（家族）に対し、聴能、言語及びコミュニケーションについての指導を行っている。ここでの実践から、軽度・中等度難聴児に対しては、実際のコミュニケーションにおいて深いやり取りができず言語理解の乏しさを感じる人が多いことが報告された。また、3事例から、保護者の意識改革、同じ障害を持つ子ども同士の交流、個別の対応の重要性が指摘された。

以上の、調査や報告等から、今後の軽度・中等度難聴児（者）の教育的支援の在り方を検討する。

本研究における実践報告から、軽度・中等度難聴児の有する課題が、社会的に十分認知されていない状況が示された。つまり、「高度難聴と比較して障害が軽いので大きな心配はない。」あるいは「僅かの配慮があれば何とかなる。」というように捉えられ、軽度・中等度難聴がどのような障害であり、どのような問題を有しているのか等、指導上の課題が十分意識されてこなかったのではないかと振り返る必要がある。

近年、軽度・中等度難聴が注目されてきた背景としては、人工内耳装用や一側性難聴の障害についての社会的な理解の深まり、軽度・中等度難聴を有した重複障害児への注目と対応の効果等が考えられる。

本研究からは、軽度・中等度難聴の教育的支援にとって、当事者への教育内容の確立、保護者支援及び理解啓発が重要であることが確認された。

一般に、聴覚障害は外見ではわかりにくい障害だと言われる。特に、軽度・中等度難聴という障害は、「見過ごされやすい障害」であり、個別の教育的支援が必要である。このため、今後は、当事者にあっては、発達段階に応じた自己意識の適切な発達を支援する教育内容を検討すること。そのためには聴覚障害者情報提供施設からの情報を参考にしたり、卒業生等の成人軽度・中等度難聴者の抱える課題からのフィードバックを得ることが大切である。また、「障害認識・自己認識」といわれる支援プログラムに関する情報を収集し、実際の指導に活用することが重要である。

軽度・中等度難聴児は、通常の学校に在籍する機会が多いことから、彼らの能力を最大限伸長させるためにも、通常の小中学校への恒常的な理解啓発が必要である。このため聾学校においては、聴覚活用の多様性(きこえとニーズ)に対応した専門家を配し、難聴教育の要として、その役割を果たすことが求められる。

次に、保護者支援であるが、障害の軽重に係らず、障害の前に保護者は無力になる場合が多い傾向にある。このため、保護者に対しては、当事者同様に、切れ目のない継続した支援が求められる。保護者支援は家族も取り込み、医療、福祉、教育の関係者の連携が欠かせない。

さらに、聴覚障害教育関係者は、聴覚障害という障害の多様性や教育の可能性について、理解啓発を含む教育活動全体を通して、社会に広く理解されるように努めることが重要である。

(原田 公人)

#### 引用文献・資料

小寺一興 補聴器の適応と適合検査、日本医師会雑誌 2000/3/15 (第123巻・第6号)